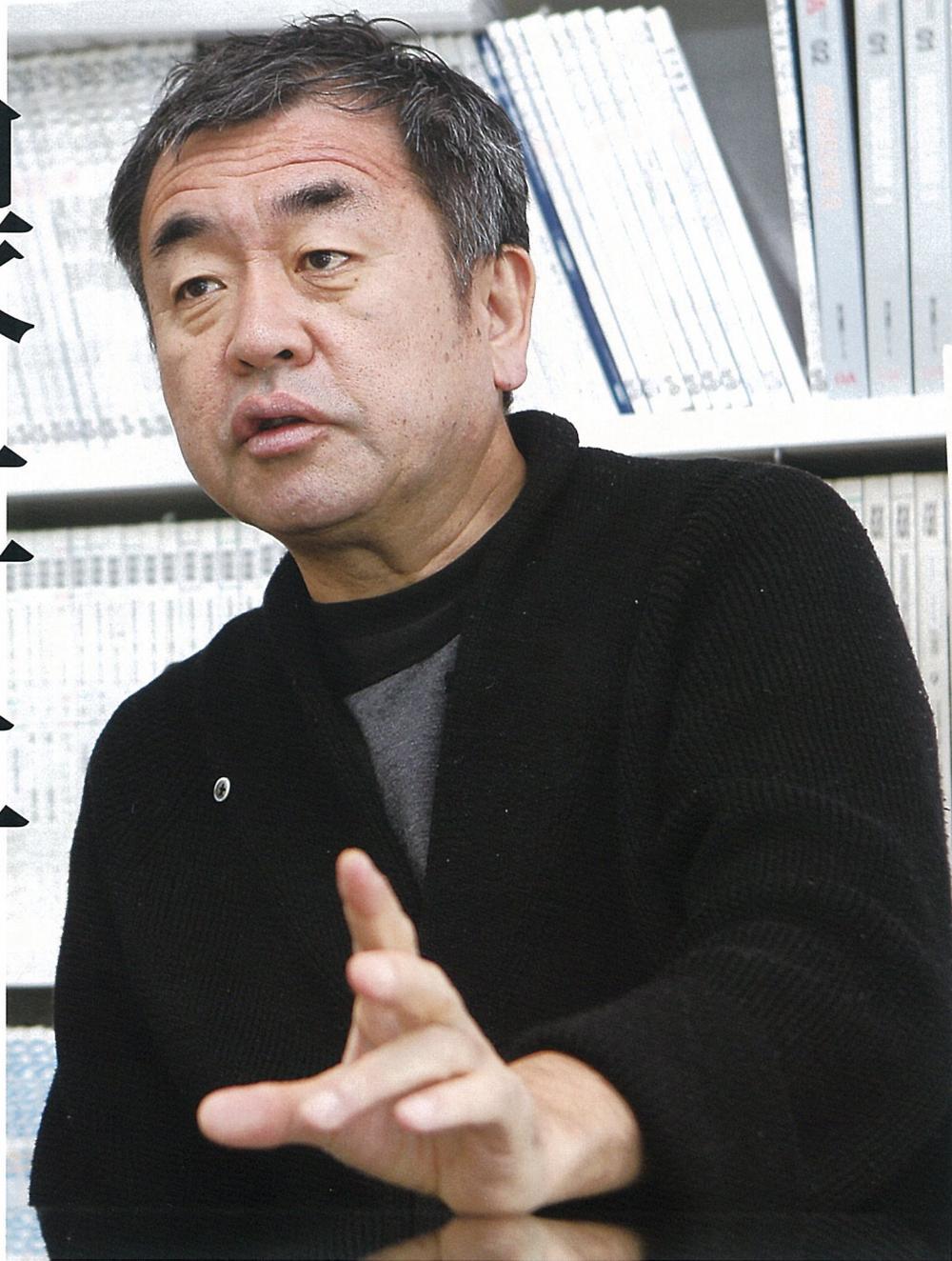


隈研吾

建築家・東京大学教授
隈研吾建築都市設計事務所代表



こんな市庁舎ってありなの？
その設計思想と役割を聞く

1965年に独立したシンガポールの初代首相李光輝は、新都市国家の富の創出法として「MICE」という概念を提起し、開発型国家経営を推進してきた。MICE=マイスはすっかり日本では観光立国のコンセプトとして人口に膾炙している。李はいう「私はこの国の経済の根幹を多くのヒト・モノ・カネ・情報(頭脳)を集めることで成立させようと考えた。この国の人口は少なくともヒト・モノ・カネ・情報を集めることで十分に経営できる。たとえば観光客はこの国の国民より一日平均6~7倍多くお金を使ってもらえる。安全で美しい観光施設、商業サービスなどを創出することはMICEのインフラなんです」(1985年「AsiaTelecom」へのメッセージ)。

李光輝はさらにいう「MICEとは人を集める“口実”を小規模なものから順に並べた人集め作戦の頭文字である。Meeting、Incentive (Travel)、Conference、Expositionだ。近い将来、このシンガポールに年間5000万人は世界からお招きできるようにしたい」。李光輝は港湾・空港・情報・観光のためのインフラを猛烈な勢いで構築してきた。シンガポールの紙幣にはセントーサ島のテレポート(パラボラアンテナ)が描かれている。李光輝のMICEに対して世界の主要都市経営者たちも手を拱いていたわけではない。コンベンション都市構想でそれなりの成功を収めてきた。

由緒ある都市、新潟県長岡市(森民夫市長)がMICEやコンベンション都市構想を真似したとは言いたくない。独自の構想のもとに2012年4月1日に新しい市庁舎を立ち上げる。なんだ市庁舎というハコモノじゃないかと揶揄されそうだが、そう単純に切り捨ててはいけない、何か主張があるというのが本インタビューの趣旨である。その新しきハコモノとは「アオーレ長岡」のことだ。アオーレとは地元の言葉で「会おうね」ということ。その市庁舎の設計を主導するのが隈研吾である。67者のコンペを勝ち抜いた美しきMICE拠点「アオーレ長岡」という構造物とは何なのか、隈研吾に聞いた。

(文責:天野昭/写真:新井誠/CG画像提供:隈研吾建築都市設計事務所/取材協力:NCT澤田正彦/2012年1月23日インタビュー実施)